

# 1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 4月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2290300017
法人名	有限会社 それいゆ
事業所名	ぐるーぷほーむ「しあわせの家」かなみ
所在地 (電話番号)	静岡県田方郡函南町間宮 617-3 055-979-7600
評価機関名	セリオコーポレーション有限公司
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年03月04日(火)

## 【情報提供票より】(平成20年 01月 25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 04月 01日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 2人, 非常勤 13人, 常勤換算 5.1	

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木質構造 造り	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	34,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要(平成 20年 01月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81.0 歳	最低 69 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	蛇が橋クリニック・NTT東日本伊豆病院・さくらい歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理想の福祉の世界を目指す法人代表に共鳴し、理工系出身の取締役・ホーム長が運営する、開設してから1年のホームである。地域に密着したグループホームを目指して、地域交流を積極的に進めている。特徴的には、データや事実に基づきホームの姿を浮き彫りにし、運営に活かしていることである、例えば、独自の家族アンケート、毎日の利用者・家族・職員・ボランティアの内外接触頻度データ・利用者の特性を踏まえた4つの行動パターン化等、随所に独自の工夫が見られる。科学的な管理手法の一つである目標管理も導入されようとしており、理念として掲げている「福祉の心」を忘れずに大切にすれば、異色のグループホームとしての発展が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての調査である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は、自分たちの職場(グループホーム)を第三者に評価していただくことで、新たな発見や気づきを得、改善に役立てるよう理解している。職員全員で自分たちのホームを客観的に自己評価し、今回の外部評価に臨んでくれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	開設より地域密着を図り、開かれたホームを目指して、運営推進会議を3ヶ月に一度実施している。また、地域交流サロンでは、内容の検討や高齢者の健康などについて実施の前の打ち合わせに1月より参加している。
②	町の高齢福祉課や議会の方にサービスの現状を見学していただく機会があり、意見をいただいている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームの入口に苦情・相談受付のポスターを掲示しており、独自に行った家族アンケートで出された意見は、社内の経営会議や職員会議で検討し、運営に生かしている。また、3ヶ月に一度、「しあわせホームだより」を発行し、その折金銭出納簿の写し、入居者の生活に密着した写真、バイトルサインのグラフを添えて送付しており、家族からも喜ばれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流・連携に努め、開かれたホームを目指している。毎日利用者・家族・職員・ボランティア等の面会・来訪・外出・行事参加(地域交流悠々サロン)など、内部・外部との触れ合い頻度を記録しており、昨年4月から今年3月までの10ヶ月の月平均の延べ人数は、123人に及んでいる。地元自治会の交流サロンに月に一度参加し、近所のお年寄りとの交流を楽しんでいる。また、地域のお祭りや運動会への飛び入り参加では、大勢の人の中で楽しむことができている。
④	

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体やGH独自の理念・運営方針・経営方針等が定められており、地域に根ざし慕われる運営を心がけている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念「感謝・創造・飛躍」を掲げ、採用時の説明・月例の職員会議での振り返り等、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開かれたホームを目指し、地域との交流に努めている。毎日利用者・家族・職員・ボランティア等の面会・来訪・外出・行事参加など、内部・外部との触合い頻度を記録しており、昨年4月から今年3月までの10ヶ月の月平均は、延べ人数123人に及んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、自分たちのホームを客観的に自己評価した上で、今回の外部評価に臨んでくれた。第三者に評価してもらうことで、新たな発見や気づきを得、改善に役立てる前向きな姿勢が感じられた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1回着実に開催され、然るべきメンバー出席のもと、ホームの実情・行事報告・地域行事への参画の仕方等、前向きな議論が活発に行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、町の高齢福祉課や議会の方にサービスの現状を見学していただき、意見をいただいて、共にサービスの質向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族来訪時は近況報告をし、緊急時は電話連絡をしている。また、3ヶ月に一度、「しあわせホームだより」を発行し、併わせて金銭出納簿の写し、入居者の生活に密着した写真、バイタルサインのグラフを添えてご家族に送付しており、家族からも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口が明記され、ポスターも掲示されている。また、独自の利用者家族アンケートを実施し、頂いた意見は社内の経営会議や職員会議で検討し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの支援が受けられるよう、異動や退職の際は円滑な引継ぎに配慮し、重複期間を設定するなどして、利用者へのダメージを少なくするよう工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設初年度として、社内外の必要な研修は行われているが、職員のレベルに合わせた研修計画はこれからである。	○	目標管理の導入を考えておられるので、職員の経験やレベルに応じた育成の方向を明確にし、研修計画を策定されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターによるケア会議が、2ヶ月に1回行われているが、同業者とのネットワーク作りには至っていない。	○	同業者とのネットワーク作りを働きかけ、共にサービスの質の向上を図る取り組みが必要だと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者と家族が雰囲気に徐々に馴染めるよう、体験利用や食事を共に受けられる。柔軟に対応しサービスを利用する前の配慮と、初期の信頼関係を築くホームの前向きな姿勢が感じられる。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人の意向を尊重し、日々の生活の場面を共に分かち合い、寄り添うケアを目指している。また、家族にも理解と協力をお願いし、利用者本位の関係を維持するよう取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの1日の生活リズムは、食事やおやつの時間を基準にし、利用者の希望や意向を尊重した支援が行なわれている。また、外出・趣味活動にも積極的な対応がされている。無理強いではなく、利用者の4つの生活パターンの類型化も試みている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初回での面接や家族の訪問時での話し合いで、本人や家族の意向の把握に努めている。また、自主的に家族アンケートを行ない、満足度等の結果やご意見を介護計画に反映するよう努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	支援経過には、日々の行動が会話形式で具体的に記録され、介護計画が現状に即して見直しが行われている。しかし、見直しの周期性は見られなかった。	○	開設2年目を控え、ホーム長もケアの充実を目標にし、介護計画の見直し期間を3ヶ月にしたいと考えているので、実行されることを希望したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の生活面の状況を変化表に記録し、家族や医療関係への情報提供と対応が行なわれている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が納得しているかかりつけ医には、電話相談や往診にも対応いただいている。受診時にご家族が対応できない場合は、ホーム職員が支援対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応については、早期からの話し合いが行なわれ、本人や家族からの意向や希望への対応について理解を得るよう努力している。また、職員の研修等で方針の共有に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の取り扱いについて理解し、対応している。職員の言葉かけに関しては、プライバシーを損なうことのないよう意識して行なうよう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の姿勢を堅持し、本人の希望等を尊重するよう努力している。家族アンケートで意見を聞き、職員の支援方法に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや季節の食材を取り入れた献立が作成され、利用者と職員で準備や片付けを行なっている。職員による本格的な食事や手作りのケーキでお誕生日やクリスマスを楽しむ機会を設けている他、和食歴50年の板前料理も、月7～8回楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やタイミングに合わせて入浴できるよう、曜日・時間帯の対応がされている。また、入浴剤を利用し、変化を楽しみめるよう工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味を活かせる支援を行うことや、園庭での花や野菜の栽培をしたり、月に1回の地域自治会の悠々サロンに参加し、生活歴や力がその人に合った役割や楽しみにつながるよう取り組み、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の気晴らしの散歩や買い物など、職員は利用者の希望に添う支援を心がけている。また、悠々サロンで地域との触れ合いを持つような外出の機会も持たれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵を掛けないようにし、リーダーチェックリストにより日常の行動を記録している。また、玄関にセンサーを設置するなど、鍵をかけることの弊害を理解したケアが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練はキッチンからの出火を想定し、利用者の避難誘導が計画され実施された。設備面では防災システムの保守管理者の立会いのもとに確認されている。しかし、非常時の地域との協力関係の構築は、これからの課題である。	○	運営推進会議等を通じて、しっかりした協力関係を築くよう期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の栄養状態は、食事の摂取量の記録とバイタルチェックによる体重管理等、日々の状態を参考に行なわれている。水分量は1日の目安量から水分摂取管理されている。個別対応による支援もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面と西面に広がる田んぼから、四季おりおりの季節感を感じ、開放的な印象を受ける。玄関や居間には植物や季節の行事に合わせた飾りつけがされている。また、額に入れた刺繍は利用者の作品で、生活感のある見事なものであった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室は、慣れ親しんだ家具や調度品、家族と撮った写真などがあり、その人らしい雰囲気と居心地よい部屋になるよう工夫されている。		